



第3回津波防災地域づくり推進協議会を開催

第3回津波防災地域づくり推進協議会が11月15日に厚南会館で開かれ、「厚真町津波防災地域づくり推進計画」の策定に向けて行われている地域住民懇談会での要望に対する見解や計画の素案などについて説明・協議が行われました。

協議会は、会長で東北学院大学准教授の定池祐季さんが進行し、事務局が地域住民懇談会での意見等を報告。さらに①津波避難施設の候補地②津波避難施設の概念③津波避難施設の平時利用④避難路⑤その他の津波防災対策—の5項目に大別して対応方針の説明や議論が行われました。その中で、優先課題の津波避難施設は、住民やサーファーなどの意向を考慮して建設を進めたいという町の考え方も示されました。



計画策定に向けて議論する協議会の出席者たち

くらしのゼロカーボンフェア開催

胆振総合振興局と町は11月19日、総合福祉センターで「厚真からひろがるくらしのゼロカーボンフェア」を開催し、省エネ住宅や最新のエコカーの展示、フードロスから作った粘土のワークショップなどが行われました。

環境に優しい住環境などの普及が目的で、屋内ではエコ住宅に関するミニ講座や実践されているエコ住宅への工夫などを紹介。また、屋外では、自動車3社がエコカーを展示し、自動車から家電への電力供給のデモンストレーションが行われました。

このほか、食品廃材から粘土を作り、資源循環に取り組む千歳市の会社が「ねんどのワークショップ」を開催。石油由来のプラスチックなどを使った粘土に対し、食品廃材などを原料にした栄養価のある粘土で、遊び終わっても土や海などに還元できます。参加した親子は、資源循環活動を学びながら、ゾウや亀などの造作を楽しみました。



親子が参加したワークショップ

東胆振1市4町（苫小牧市、厚真町、安平町、むかわ町、白老町）と苫小牧市医師会（沖一郎会長）は11月20日、苫小牧市医師会館で「災害時の医療救護活動に関する協定」を結びました。

協定によって、大規模災害時などで自治体が避難所や救護所を開設した際に、情報を共有することで同医師会に登録する約260人の医師などを迅速に編成・派遣し、安定した医療体制が確保できるなどのメリットがあります。

宮坂町長は「協定によって、さまざまな救護活動が確立され、町民の安心・安全が確保できる」と話し、沖会長は「自治体とさらに強固な結びつきを深め、医療・救護活動を高めたい」と語りました。

1市4町と苫小牧市医師会が 災害時の協定を締結



相互協力を約束した沖会長（左から3人目）